写187　城崎駅前より東山公園方面

写188　一の湯付近より御所湯方面

(6)北但震災と町の壊滅

地震の発生と震災の状況

大正十四年五月二十三日午前十一時十分頃、県下一帯に激震があったが、但馬とくに豊岡城崎方面に大被害をもたらし、和田山以北は電信電話鉄道とも不通となった。

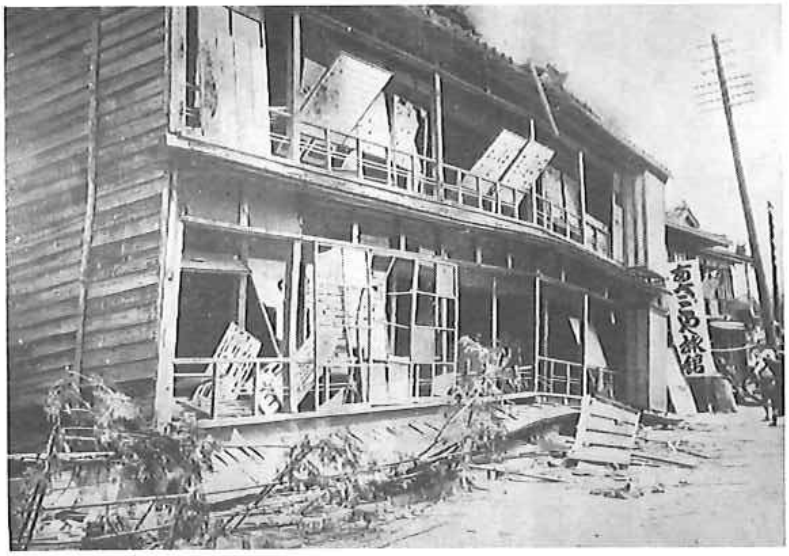
神戸海洋気象台の発表によれば、発震午前十一時十分二秒、震動継続時間十八分、最大震巾〇・七五ミリ以上に達し、震央距離は九十四キロメートル、深度六十キロメートルの上下動で、地すべり地震で、震央地は但馬地方との事であった。

豊岡測候所の発表によれば、震源は円山川河口沖合北緯三五度七分、東経一三四度七分の地下五〇～六〇キロの、東西の地すべりでマグニチュード七・〇の烈震であった。

ちょうどお昼前で各戸とも炊事をしており、水平動を交えた激烈な上下動のため多くの家屋が倒潰し、忽ち数箇所から火災が発生して燃拡がり、但馬地方未曽有の大災害となった。城崎町では家屋倒潰で道路がふさがっ

た関係もあって、消防活動ができず家の下敷になったまま焼死する者、逃げた山林に延焼してそこで焼死する者など多く、さながら生き地獄の様相を呈し湯島区は殆ど全焼した。内川村地区では飯谷で養蚕用暖房から出火し、部落の北部半数が焼失したが他部落は火災を免がれた。

被害の状況は『北但震災誌』によれば表72の如くである。



写189　三階建旅館の一階が潰れたもの

災害に対する救援

従来但馬には大地震はないと信じて生活して来た住民が未曽有の激震に遭遇し、或いは肉親を失い、或いは着のみ着のままで焼け出され、夜になっても寝る所もないという有様でそのショックは名状し難いものがあり、一時は忘然自失の状態にある者もあった。この被害状況は、地震二分後に豊岡郵便局長が「唯今地震あり倒潰家屋多数」と大阪逓信局長に打電したのを第一報に、兵庫県庁や東京にも伝わり、火災の煙がまだ立ち上っている頃早くも新聞社の飛行機が飛来し、間もなく日本全国はもとより外国にも報道された。

この災害に対して国の内外から公私の救援の手がさしのべられた。その要点は大要つぎの如くである。

恩賜救恤金　　城崎町　　一万〇二一五円八〇銭
　　内川村　　九一五円五〇銭